

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	すてっぷ小祿		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日	～	2026年 3月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日	～	2026年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 11日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人一人の想いに寄り添った支援を行う姿勢 信頼関係の構築	「行動には理由がある」を職員一同意識し、申し送りや振り返りを行っている。 何か起きた時には「どうしたの?」と意志の確認を行い、気持ちの確認を最初に行うようにしている。 行動に着目し「なんで〇〇するの?」等、すぐに注意や指導に入らないようにしている。	児童一人一人とのスペシャルタイムを設けたり、児童が大人役を行う活動を組む等して、自己肯定感の向上に繋げていく。 保護者との密な情報交換、共有を行い日々以上により良い支援を目指し取り組んでいく。
2	子供たち同士でのやり取りの数が増えた事や「先生こんな時どうしたらいいの?」「困ってるんだ・・・」と、大人に対して、自分の想いを言葉にして伝える児が増えている。	児童の様子によってこちらから声をかけたり、発信が出るのを待ってみたりして臨機応変に対応を行っている。 自分から「あのね・・・」と伝えようとする様子が見られた際には「教えてくれてありがとう。言葉にして伝えてくれると分かりやすいし、先生力になれるよ」と行動を褒め、行動の定着を促している。	状況によってはマンツーマンでなく、小集団や多い人数での大集団での対応を行う様になっている。過去に起きた成功例や失敗例も児によっては伝えて、認識や理解の強化に繋げている。
3	毎月の活動プログラムを利用者に合わせて決定している。	スタッフで定期的に立案会議を行い、児童の様子を確認しあい、それに合わせた活動の取り組みを検討している。	利用者の多様性に対応できるように、研修等で職員スキルを伸ばしていく。 活動内容が固定化しないように様々なツールを検討し、取り入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若い職員が多く、障害児の対応としての経験が少ない。	職員の入れ替わりがここ1から2年の間にあり、経験不足な面が見られる。対応する児も成長と共に、複雑な課題が増えては苦戦する様子が増えている。	職員が定着できるような体制作り。スモールステップの考えの下、児童だけでなく職員の成功体験や自己肯定感の向上を行っていく必要があると思われる。
2	保護者同士の交流の場の提供。	日時、会場の設定、駐車場問題等、解決しないといけない課題が多い。	参観日と合わせて実施する等、参加しやすい日程を検討する。年間行事に位置づけ、早めの計画を行う。
3	地域の子供たちとの交流。	定期的に地域の公園や博物館などの地域資源を利用しているが、地域の子供たちとの積極的な交流は行っていない。	地域のイベント等があった際は積極的に参加する。 地域資源を利用し、地域の子供たちとの交流があった際は所情報を発信する。